

ミニトマトすすかび病に対する各種薬剤の防除効果

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

ミニトマトすすかび病は、葉かび病耐病性品種の導入により顕在化した病害であるが、登録薬剤が少なく、各種殺菌剤の防除効果に関する知見が少ない。また、一部特別栽培に取り組む産地もあり、特別栽培でも使用可能な農薬で本病に効果のある殺菌剤選定も求められている。このため、本病に対する各種殺菌剤の防除効果について検討し、防除対策の基礎資料とする。

(2) 情報・成果の要約

- 1) ミニトマトすすかび病に対し、TPNを含む殺菌剤（ダコニール1000、アミスターオプティフロアブル）の防除効果が高い。
- 2) 次に、トリフミン水和剤およびジーファイン水和剤も比較的防除効果が高い。

2 試験成果の概要

- (1) 2012年に現地ミニトマトほ場から採取したすすかび病菌の分生子を接種して殺菌剤の防除効果比較を行った結果、TPNを含む殺菌剤（ダコニール1000、アミスターオプティフロアブル）は防除価90前後で防除効果が高く、次いで、トリフミン水和剤は防除価50以上と防除効果が比較的高い結果であった。なお、いずれの処理区も薬害等の発生は認められなかった（表1）。
- (2) 2013年、前年に最も効果の高かったダコニール1000と特別栽培に対応可能な薬剤等も含め防除効果を比較した結果、ダコニール1000の防除価が80以上と防除効果が高かった。次いで、特別栽培でカウントされないジーファイン水和剤の防除価が50以上と防除効果が比較的高く、発病前～極初期の予防散布での使用が可能と考えられた（表2）。

表1 ミニトマトすすかび病に対する各薬剤の防除効果(2012)

供試薬剤	希釈倍数	第1回目調査(最終散布7日後)			第2回目調査(最終散布14日後)			薬害
		発病葉率(%)	発病度 ¹⁾	防除価 ²⁾	発病葉率(%)	発病度 ¹⁾	防除価 ²⁾	
ダコニール1000	1000倍	20.0	5.0	94.0	31.1	7.8	91.3	—
アミスターオプティフロアブル	1000倍	24.5	7.0	91.6	36.7	9.7	89.1	—
トリフミン水和剤	3000倍	67.8	32.2	61.3	76.6	41.4	53.6	—
アフェットフロアブル	2000倍	88.9	63.9	23.3	98.9	67.8	24.1	—
【参考】								
ベルコート水和剤	6000倍	58.9	20.0	76.0	78.9	28.6	68.0	—
カンタスドライフロアブル	1000倍	97.8	65.6	21.2	97.8	66.7	25.3	—
ロブラール水和剤	1000倍	88.9	67.5	19.0	100	80.3	10.1	—
アミスター20フロアブル	2000倍	92.2	66.7	19.9	97.8	70.0	21.6	—
無処理		100	83.3	—	100	89.3	—	—

注)薬剤散布:8/6,21 病原菌接種:8/7に 1×10^5 個/mLに調整した病原菌の分生子懸濁液を噴霧接種した。

¹⁾発病度 = $\{ \sum (\text{指数} \times \text{発病程度別葉数}) / 4 \times \text{調査葉数} \} \times 100$

指数 0:いずれの小葉にも病斑を認めない、1:調査小葉の1/3未満に病斑が認められる、2:調査小葉の1/3以上2/3未満に病斑が認められる、3:調査小葉の2/3以上に病斑が認められる、4:全小葉に病斑が認められる。

²⁾防除価は発病度から算出した。

³⁾薬害: 一薬害なし。 ±軽微な薬害が認められるが、実用上問題なし。 +薬害あり。

